

シンポジウム | Live配信抄録 | シンポジウム

シンポジウム7

地域歯科医療シンポジウム：COVID-19 で語ろう～どう高齢者を支えるのか～〈指〉〈日〉

座長：糸田 昌隆（大阪歯科大学）、平野 浩彦（東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科）

2021年6月13日(日) 15:40 ～ 17:00 Line A (ライブ配信)

【糸田 昌隆先生 略歴】

【現職】

糸田 昌隆（いただ まさたか）

大阪歯科大学 大阪歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科 科長 教授

医療保健学部 口腔保健学科 教授

【職歴】

1988年 岐阜歯科大学卒業 大阪府八尾市 歯科医院勤務

1990年 大阪歯科大学 補綴学第2講座入局 （後に有歯補綴咬合学講座に改名）

1991年 わかくさ竜間リハビリテーション病院 非常勤勤務

1995年 わかくさ竜間リハビリテーション病院 常勤勤務 歯科医長

2003年 わかくさ竜間リハビリテーション病院 歯科・リハビリテーション科 診療部長

2017年 より現職

【その他活動】

大阪保健医療大学 非常勤講師

朝日大学 歯学部 非常勤講師

大阪府歯科医師会 老人歯科保健推進部会 オブザーバー

日本リハビリテーション病院・施設協会 医科歯科連携委員会 委員 など

【歯科系会員学会と活動】

日本口腔ケア学会・理事・評議員

日本摂食嚥下リハビリテーション学会・評議員，日本老年歯科医学会・理事・代議員

日本口腔リハビリテーション学会・代議員，

日本障害者歯科学会，日本補綴歯科学会，日本口腔インプラント学会，日本歯科医学教育学会 など

【認定など】

歯学博士（大阪歯科大学）

日本口腔リハビリテーション学会 指導医・認定医 評議員

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 認定士 評議員

日本口腔ケア学会 指導医、認定士 理事

日本老年歯科医学会 認定医 理事

日本サルコペニア・フレイル学会 指導士

【近年著書】

2020 臨床栄養：口腔のミニマムエッセンス（共著：医歯薬出版）

2019 歯科衛生士のための口腔ケアと摂食嚥下障害（編著：口腔保健協会）

2018 サルコペニアの摂食嚥下障害Up date（共著：医歯薬出版）

2018 今日の治療指針2018（共著：医学書院）

2018 よくわかる高齢者歯科学（共著：永末書店）

【平野 浩彦先生 略歴】

東京都健康長寿医療センター
病院歯科口腔外科部長
研究所自立促進と精神保健研究チーム研究部長

平野 浩彦（ひらの ひろひこ）

日本大学松戸歯学部卒業 医学博士
平成2年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科 研修医
平成3年 国立東京第二病院 口腔外科 研修医
平成4年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科主事、
平成14年 同センター医長
（東京都老人医療センター・東京都老人総合研究所の組織編成により東京都健康長寿医療センターへ名称変更）
平成21年 東京都健康長寿医療センター研究所 専門副部長
平成28年 東京都健康長寿医療センター歯科口腔外科 部長
平成31年～ 現 職

日本老年学会
理事
日本サルコペニア・フレイル学会
理事
日本老年歯科医学会
理事・専門医・指導医・摂食機能療法専門歯科医師
日本老年医学会
代議員
日本大学
客員教授・東京歯科大学 非常勤講師・昭和大学歯学部 非常勤講師

【シンポジウム要旨】

COVID-19 拡大で顕在化した地域口腔保健の課題（キーワード：口腔機能、フレイル、介護予防、後期高齢者歯科検診、在宅診療、歯科医療従事者の生活の変化など）について、現場の意見や経験、成功事例や失敗事例の共有し、歯科医療がどう高齢者を支えるのかを検討したい。

【このセッションに参加すると】

COVID-19 拡大で顕在化した地域口腔保健の課題に関する理解が深まります。

[SY7-2]都市部において ICTを活用することで多職種連携が奏功して COVID-19に対処できている例

○高田 靖¹ (1. 公益社団法人 東京都豊島区歯科医師会)

【略歴】

高田 靖
昭和40年1月29日生
現職及び役職
公社)東京都豊島区歯科医師会 副会長
公社)東京都歯科医師会 成人保健医療常任委員会 委員長

地域保健医療常任委員会 委員長
豊島区 介護保険事業推進協議会 委員
介護認定審査会 副会長
豊島区認知症対策推進会議 委員
豊島区在宅医療連携推進会議 委員

経歴

平成2年3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
平成2年4月 東京医科歯科大学第3保存科入局
平成4年3月 東京医科歯科大学第3保存科退局
平成5年4月 高田歯科医院開設
平成9年4月～平成11年3月 社）豊島区歯科医師会・総務理事
平成15年4月～平成17年3月 社）豊島区歯科医師会・会計理事
平成17年4月～平成22年6月 社）豊島区歯科医師会・専務理事
平成22年7月～平成24年6月 公社）東京都豊島区歯科医師会・専務理事
平成26年6月～平成30年6月 公社）東京都豊島区歯科医師会・専務理事
平成30年6月～ 公社）東京都豊島区歯科医師会・副会長

東京都豊島区は COVID-19の蔓延で一時期、新宿区と同様にいわゆる「夜の街」ということで多くの陽性者がいる地域として知られることになった。しかし、逆にこれがきっかけで医療・介護事業所と行政とが一体となって COVID-19に対処することになった。PCR検査についても医師会と歯科医師会とで協力して実施している他、行政と四師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護師会）による連絡会を定期的に行っている。豊島区はコンパクトな地域で地域包括圏域も8か所ですべて各圏域での多職種連携が上手く機能していることもあり、まずはその中から自発的に多職種による COVID-19感染対策チームが結成された。コンサルテーションチーム、現場サポートチーム、PPEチーム、教育チーム、情報チームに分かれ毎週金曜日にミーティングをリモートで行い情報交換を行っている。具体的な活動としては区内介護施設へのゾーニングのアドバイスや医療・介護職向けの感染予防研修会の実施、PPEの備蓄、ICTを使った相談コーナーの設置、事例検討会などを行っている。この自主的な会に行政も関与することになり保健所からの情報や金銭的援助が得られる他に今後、COVID-19が収束した後も新たな感染症や災害時の対策チームとして認められることになった。

本区では在宅訪問歯科医療などの地域歯科保健・医療は口腔保健センターを中心に展開されているがこれまでの実績から施設訪問歯科診療は施設側から断られることもなく緊急事態宣言下でも通常業務が続けられた。しかし、在宅訪問歯科診療では家族の理解が得られず、診療を拒否されるケースがあった。現在も在宅訪問歯科診療実績は対前年度比マイナスが続いている。一方、施設訪問診療は前年度を上回るまでに回復している。本区ではICTツールとしてMCS（医療用SNS）を使用しており、これを通じて情報共有を行っているため、訪問歯科診療に行く前に他職種からの情報提供を受けることが出来、事前準備が可能であり、発熱などの事前情報があればそれなりの準備をして診療に行けるので無駄な労力を使うことがなかった。在宅訪問歯科診療では他の介護サービスも介入する機会が激減したために認知症が進行してしまい、関係作りをやり直すことになったケースや廃用が進行してしまったケースなどが散見された。

今回の対応から在宅訪問歯科診療では平時から歯科診療の必要性のモニタリングをしておき、流行期で訪問が制限される状況でも頻回に管理が必要な患者と減らしても大丈夫な患者とをトリアージして対応する必要があることがわかった。また、訪問歯科診療を過度に恐れることがないよう、本人・家族への歯科診療の安全性についての教育が必要である。今後はアフターコロナを見据えて高齢者歯科健診とフレイル予防事業とを組み合わせ高齢者のフレイル予防事業を展開していく予定である。